

# 元気で躍進 地域経済

## 企業人材の越境テーマ

ベース・ミエラポで討論イベント

三重県で企業人と学生らが共創するきっかけづくりを、経営コンサルタントの(株)アルファドライブ(本社「東京都」)が立ち上げたビジネスコミュニティ「BASE・LAUNCH・MIE(ベース・ローンチ・ミエ)」のイベント「越境のすゝめ」が20日午後3時から、松阪市大口町の三重化学工業(株)本社・ミエラポで開かれた。同社の山川大輔代表取締役社長(46)と、著述家で企業の組織開発を支援するあまねキ



ヤリア(株)本社「浜松市」の沢渡あまね代表取締役CEO(48)が登壇。約40人が聴講し、交流した。エは三重県在住の石田礼

CEO(48)が登壇。約40人が聴講し、交流した。エは三重県在住の石田礼さんがベース・ローンチ・ミエの趣旨を説明した後、オープニングイベントの懇親会で松阪開催のきっかけをつくったという芳野正英(49)があいさつ。

この日は、司会の石田さんがベース・ローンチ・ミエの趣旨を説明した後、オープニングイベントの懇親会で松阪開催のきっかけをつくったという芳野正英(49)があいさつ。

山川社長は「三重化学工業の越境ストーリー」と題して講演。一昨年度のグッドデザイン賞にも選ばれた「ミエラポ」の「兼業、副業の人を巻き込んだ共創の仕組み」について説明し、「こういう取り組みをなぜ三重県の中小企業がやっているのか」と言う。ワーカーはいるが、クリエイティブな人材が雇えない課題があったから」と。

ミエラポのオープニングイベントの仕組みにより、社外人材に兼業・副業の形で働いてもらったり、女性社員だけでフエムテック商品(女性が抱える課題の解決を目指す商品)を開発したり。「わくわくして働ける場づくりが私(社長)の仕事」と言い、「いろいろな人と関われば、わくわくして楽しいんじゃないか」と思っていたが(結果として)

子アルファドライブ(東海エリア担当)プロジェクトマネージャー(44)が中心となって昨年12月に立ち上げ、会員は現在約300人。三重化学工業や(株)百五銀行、(株)佛英堂など49企業が支援し、県が後援している。1月に四日市市でオープニングイベントを開催した。

外部の人を巻き込んで共創の場が人の成長を加速させる「今まで一日中、検品・梱包(こんぼつ)をやっていた社員が商品開発の意見を言い合う、そういう積み重ねが成長につながる」と4年間の取り組みを振り返った。

沢渡さんは「新時代を生き抜く越境思考を組織の景色、地域の景色をカラルに！」と題して講演。「越境」という概念を組織開発に取り入れており「三重にこんな素晴らしい越境思考を体現している会社があるんだ」と、山川さんのお話に感動したと切りだし「越境・共創の場に参画することによって、例えばアシリテーション能力が身に付くとか、景色を変え、育っていくことは間違いなくある」「少子高齢化で労働人口も少なくなるから、1人を1社で独占するのではなく、他社や社会とシェアして高め合うという、リソース・シェアという発想を持った方がいい」などと提案した。

演者に質問するトークセッションで、参加者の川合泰寛・プルデンシャル生命保険(株)三重支社長(48)は「副業をたくさん持つてしまうと一つの仕事に対する頭の切り替えが難しくならないか」と質問。沢渡さんは「タイムマネジメント、トレーニングを整えるか、副業しているA社とB社の間にコーディネーターが入ってマネジメントするかサポートする議論が必要」と答えた。

大口町のミエラポで